

晴耕雨読

Vol. 29 2013/1/17
 ■発行: 株式会社 建設プロジェクトセンター
 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量業登録
 〒869-1234 熊本県菊池郡大津町引水215-1 (技術研究所)
 本社: 熊本市/八代支店/合志営業所
 TEL:096-293-4400 / FAX:096-293-4885
 E-mail: kenpro@muc.biglobe.ne.jp
 ■責任者: 中村 秀樹

新年明けましておめでとうございます。

昨年は熊本も未曾有の災害(九州北部豪雨)に見舞われた年であります。私たちの郷土の「安全・安心」を願い【郷土安穏】の年であることを心より願う次第です。

郷土安穏 郷



重要文化財 仁王門
金剛力士像のうち口を閉じた吡形(うんぎょ)

鼻ぐり井手で有名な菊陽町馬場補地区の獅子舞は、仕草や歴史などの背景があって、おもしろい文化財!



金閣寺は室町時代の将軍足利義満が建立したとされる。最上階には金色の「鳳凰」が飾られており栄華と平和の象徴とされた。金色に輝く鳳凰は眩しかった。H/N



日本最古とされる樹齢約400年の侘助椿

京都円徳寺の茶室で抹茶を一杯頂く。軸には「今日是好日」とあり。花は侘助椿が飾ってある。菓子は倒変木の羊羹(表に金粉)庭は「ねね」が秀吉の為に荒々しい岩で作られ、秀吉の隆盛を願った庭と聞く。H/N (豊臣秀吉由保の寺である)

平輪農園

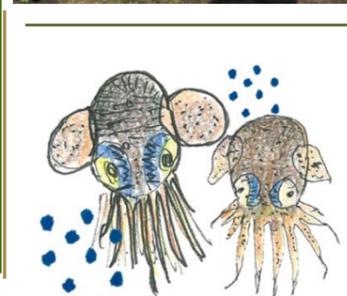
Rural Environment 農村環境

● 就農者の減少に思う事

専業農家の減少と高齢化が進む原因として、農家を継ぐ若者が減っていることがあげられる。サラマと違い定年はないが、体力勝負の重労働に加え、収入は1度の災害で全部がダメになる事もある為不安定。「自分と同じ苦労はさせたくない」と農家の親が子どもにあえて、農家を継がせたくないといった話も良く耳にする。このような農家離れ一方で、新たに農業に取り組む人たちがいる。定年後に地元に戻り農業を始める人、食の安全への意識が高まり、自ら新しい土地で農業を始める人など、さまざまではあるが一口に農業と言っても、作物の種類も多くその土地の風土によっても育て方が違って来る。やはりそれぞれの土地で長年農業に携わってきた高齢者の知恵と技術が必要不可欠となる。日本の人口の3%に満たない農家の人々が日本の食糧を支えている現在、若者と中年を新規就農者として育てていく必要性を強く感じる。T/B



今年は気温が上がらず、葉物類の生育が悪いようで、キャベツやレタスなどの葉物類がとても高い。しかし!!農園の野菜は元気に育ってくれています(*^^)v 体も寒さで冷え固まってしまうこの季節は体を温めてくれる野菜をたくさん使った料理がイイですね!!小さく刻んで餃子の具にするとキャベツや白菜はペロリと1個食べられます(笑)子どもの苦手な根菜類も煮込みハンバーグと一緒にすると食べちゃうので面白いですね。体のなかからポカポカと温めて寒い冬を元気に乗り切りましょう★☆☆T/B



石匠館の上塚先生から松合のすし屋で、トクカンと言う珍しいタコ(イカ)を食べさせてくれるお店があると聞いて行ってみました。ミミイカと呼ばれるだけあり胴体に耳のようなヒシが付いています。4cmくらいの小さいイカですが、大きさの割に墨が多く処理が面倒とのこと...でも美味。H/N

安



Civil Engineering 土木文化

● 雨にもまけず....

新年を迎え、吐く息も白くなり寒さが一段と増しておりますが皆様はどのようにお過ごしでしょうか?私は時間があれば寒さに負けず海、山、川へ行き心身共にリフレッシュするようにしております。さて、昨年に何度か取り上げさせていただいた白川積の現状について今回触れてみたいと思います。川づくりは昨年まで設計・施工が完成。私も設計に携わらせていただいた一人として非常に思い入れのあるところで。対象箇所は白川水源池の最上流部に当たり、地元住民の川への思いは人一倍強く、自主的に清掃活動、端午の節句のこいのぼりの設置等が行われています。昨年7月の九州北部豪雨被害の復旧はまだされておませんが、現在では寒さに負けず地元住民による河川周辺の清掃等も再開しており、地元住民の方々の思いの強さに感服しております。近い将来また、地元住民の笑顔が見れるのも近いかもしれません。K/N

● ふるさと鹿児島への思い



牛深から鹿児島方面を眺めるといくつかの島があります。この島は鹿児島県出水郡長島町。釣り好きの方からは釣りの名所として、芋焼酎が好きな方からは島美人の産地として知られています。若者向けの娯楽施設はほとんどなく子供たちの遊び場は山と川と海です。都会の方からだとたいぶ田舎に見えるこの島で私は生まれ育ちました。熊本に来てから12年経ちこちらの生活にだいぶ慣れてきましたが、たまに帰省しても不便と感じたことは少なく、一番落ち着ける場所です。建設事業に携わっていると現地に行くことがありますが、斜面や河川を歩くのが楽しいのは、子供のころに長島の自然相手に遊び回ったおかげでしょう。先日30歳記念同窓会が開かれ、久しぶりに会う友人やその子供達を見ていると、責任の大きさとこらからの楽しさを感じることが出来ました。地元から離れて生活しているからこそ故郷の大切さが分かります。この気持ちを無くさないようにこれからも頑張っていければと思います。T/Y

● 人々の思いを石に刻む意義を考える

県北部の山々に囲まれる「小国のたばこ石」は、厳しい環境の中、現在まで人々の暮らしや経済を支え続けた葉たばこ耕作を象徴した石碑で、6枚の葉たばこの紋様が刻まれてあります。古代より人は、石にメッセージを刻んできました。伝えたい思い等を記念碑・句碑・石碑にして残すことで、何世代もの子孫に伝えていくことができるからです。近年、禁煙志向が高まり喫煙する人は減少していますが、当時の葉たばこ耕作に対する先人の苦悩や思い、そして現在も各地で葉たばこ耕作し続けている人々も含め、このような記念碑を残し続けることで、生業、歴史、文化等を次世代まで伝えていくことがさらに必要だと思っています。T/M

穏



■後記: 熊本県内には、写真や絵に残したくなる風景や美味しい・懐かしい郷土料理等があります。まだまだ、気をつけて見ると素晴らしい場所や歴史の重みを感じる空間や文化などが沢山残されています。今後も皆さんへ地域の良さを紹介していきたいと考えています。

Human Architecture 身近な環境と暮らし

● 春の七草

1月7日は、春の七草が季節の話題となります。中国では古来より、正月の1日を鶏の日、2日を狗(犬)の日、3日を猪(豚)の日、4日を羊の日、5日を牛の日、6日を馬の日とし、その日にはその動物を殺さないようにしていたようです。1月7日は、人の日:人日(じんじつ)とし、犯罪者に対する刑罰は行わないことにしていたと云われています。この日には7種類の野菜(七草)を入れた汁物を食べる習慣があり、これが日本に伝わって「七草粥」となったようです。元々の「七草」は秋の七草を指し、1月15日小正月のものは「七種」と書き、これを「ななくさ」と読む。現在では風習だけが形式として残り、7日人日の風習と小正月の風習が混ざり、1月7日に「七草粥」が食べられるようになったようです。七草の種類は、源氏物語の注釈書「河海抄」に記載があり、後年に「①せり②なすな③御形④はこべら⑤仏の座⑥すずな⑦すずしろこれぞ七草」の歌となり広まったと云われています。この風習は、災い除けや野菜が乏しい冬場に不足がちな栄養素を補うという効能など、長寿富貴を得ることにあやかり、日本の時節の暮らしに残ってきたようです。A/T

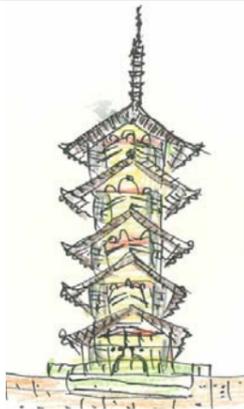


■春の七草 春は【食】を楽しむ植物です

■秋の七草 秋は【花見】を楽しむ植物です。(山上憶良が万葉集の歌で選定した植物を秋の七草と云う。)



現在、宇城市松合町で解体された須ノ前眼鏡橋の復元工事が実施されている。支保工を撤去後の石橋本体の安定をチェック。周辺は街並み景観事業で綺麗に整備されている。左写真は輪石クラウン部で揺れの有無を確認している姿はおじさん技術者の私です。H/N



土

五重塔は仏塔の形成の1つ。層塔桜層形式のうち五重の屋根をもつものを指す。左の絵は国の重要文化財 仁和寺五重塔。

~五重塔で感銘を受けた話を1つ~ 久木綾子さんは89才にして「見残しの塔」という作品で作家デビューされた女性。この作品は、山口県にある瑠璃光寺五重塔を作った宮崎県椎葉村出身の物語である。執筆は70才を過ぎてから14年もの間調査し、時には宮大工の基本を理解するために大工の弟子にさえなり、さらに執筆に4年をかけ89才の時に出版された本がこの「見残しの塔」である。老いても尚18年という長い年月をかけて書き上げた熱意と執念に感動した。H/N

